

1. 明治期の知識人に信徒を増やして、封建的道德の打破や自主独立の近代的個人の確立に大きな役割を果たしたキリスト教宗派。 1
2. **PERSON** 明治の詩人・評論家。自由民権運動に挫折後、入信。雑誌「文学界」を創刊したロマン主義文学の中心人物。 2
3. **PERSON** 明治から昭和初期の教育者。札幌農学校でクラークの教えに学び、入信。日本文化とキリスト教の融合を説き、国連事務次長にも。 3
4. **BOOK** 新渡戸稲造の主著。外国人の妻の勧めで日本精神を紹介した英文の書。 4
5. **PERSON** 明治の宗教家・教育者。入信して京都に同志社英学校設立。 5
6. **PERSON** 明治・大正の日本プロテスタント教会の中心的人物。外国人の伝道組織から日本のキリスト教を解放。東京神学社を設立し国家主義的な風潮に抵抗。キリスト教は武士道を完成させるものと主張した。 6
7. **PERSON** 明治から昭和初期の思想家。新渡戸稲造らとともに札幌農学校でクラークの教えに学び、入信。渡米して帰国後教職に就き、日露戦争に反対するなど、キリスト教的人道主義の立場を貫いた。 7
8. **WORD** 内村鑑三の言葉で、武士出身の彼が自分自身のキリスト教信仰の基盤を武士道であると表現したもの。日本的なキリスト教の信念。 8
9. 内村鑑三が、そのために生きるとした「二つのJ」。前者を未来の生命、後者を現在の生命とし、I for Japan , Japan for the world , the world for Christ , and all for God .と主張。 9
10. 内村鑑三が説く、制度としての教会を否定した福音主義。 10
11. 内村鑑三が、日露戦争に際して日本の侵略主義を道徳的墮落として主張した平和主義。絶対的平和こそが愛国であると説いた。 11
12. **BOOK** 内村鑑三の主著で、自伝的な信仰告白書。原書は英文。その他の著作に、西郷隆盛などを英文で外国に紹介した『代表的日本人』など。 12

T. Q. 「近代日本の幕開けに稲造と鑑三が果たした役割とは？」

T. A.

稲造は「太平洋の架け橋」として『武士道』を英訳し、鑑三は「2つのJ」のために生きると言って、『余は如何にして基督信徒となりし乎』を著した。2人は開国後の近代日本を外国に向けて紹介したり（稲造）、日本に無教会主義や非戦の考え方を打ち立てたりした（鑑三）。